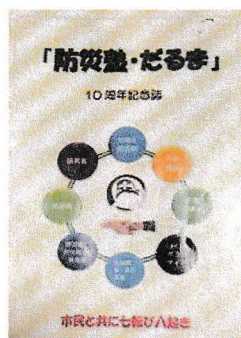


5. 活動行事

【1】だるま 10 周年記念誌の発行

だるま 10 周年を記念して、編集プロジェクトチームにより「防災塾・だるま 10 周年記念誌」と「防災塾・だるま 10 周年記念誌（資料編）」を作成、会員と関係個所に配布しました。



【2】だるま活動 10 周年、意見交換会

① 「10 年目の記念事業 活動への提言」
2015 年 10 月 談義の会 124 回で、上原さん、杉原さん、中川さん、渡辺（渉）さんの提言を受け、荏本塾長から「『地域に即した多様な防災減災活動の展開』防災減災の活動はいろいろあって良い。防災減災に向けて諦めずに自分のできる事を 地域で地道にやり続けていく中で、だるまで勉強した事も還元させていく。それぞれで活動している会員の知識・叡智が絡んで、緩やかに連動していく「繋がり」を 組織的に始める時機に来ている。」と総括されました。

② 2018 年 1 月に東京大学加藤孝明先生との新春意見交換会では今後の活動へ向け、リスクを負うイメージを共有する、地区防災計画では行政とのつながりを強化する、人がつながるコミュニティづくりの大切さ、意識改革（真の改革）を、とのご意見をいただきました。

③2018 年 11 月 9 日、特別講演「災害多発の日本列島」を荒井守横浜市危機管理監から、最近の災害と取



り組むべき課題の説明を受けました。

【3】各種イベントへの参加活動

神奈川県における防災ギャザリング（防災・減災活動体験フェア）への協力として 2010 年に実行委員会への参加、グループ展示、実演、発表会、交流会を行いました。

「防災ギャザリング」は、阪神淡路大震災の時に神奈川県内の大学生が被災地にてボランティア活動を行い、戻ってきて何かをしなくてはという思いで立ち上げたのが始まりで、神奈川県内で防災活動をしている人達も一緒に協力して 1 月 17 日に山下公園、横浜公園、かながわ県民センター等でキャンドル追悼のイベントを開催しました。その後、市民の参考になればと横浜市民防災センターを会場に、防災に関わる団体などの活動内容を紹介してきました。

横浜青年会議所のイベントに 2014 年、2015 年の 2 回参加。だるまの説明、出し物はトランシーバー経験ブースとしました。

【4】横浜市緑区白山見学会&勉強会

2014 年 10 月、台風 18 号で崖が崩れ、アパートの室内にいた 30 歳の会社員が亡くなりました。この災害では開発業者の責任・行政の監督責任、避難指示のタイミング、避難所等様々な課題が見えてきます。

当時の自治会長に参加いただき、2021 年 6 月 5 日現場見学と意見交換会を行いました。



また、熱海の土砂災害が 2021 年 7 月 3 日に起き、規模は 10 倍程度になるが、課題についてはほぼ同じ内容でした。

【5】新型コロナウイルス感染症禍の避難所運営ガイドラインへの提言集

2020 年 10 月

・2020年度3月、新型コロナウイルス感染拡大による複合災害発生の脅威への対策が急務と考えたメンバーが、役員メールで情報交換を行った。緊急事態宣言の発令で、市民の避難所での感染拡大への脅威が表面化した時期で、秋の台風シーズンに備えた対応が急務と考え「COVID-19 禍の避難所運営ガイドラインへの提案」の資料作成に3BWGプロジェクトメンバー8名で取り組みました。

*3BWGの活動

(Bosai Big Bang Working Group)

クラスターを発生しないよう試行錯誤する時期で、国や神奈川、全国の動向を捉えながら当時の最新情報でまとめました。外部発表には至らなかったが、骨格は捉え、地域での避難所運営や施設で活用しています。提案内容とプロジェクト議事録はホームページ(専門委員会議事録)に掲載しています。

【6】「自主防災のための活用事例集」の発行

ホームページ「防災関係資料」には、自分たちの地域の実情に合わせた活動を継続するために「活用してほしい資料」を掲載しました。自治会等で「自主防災組織・活動」を始める方が、「どう進めるか? 事例がほしい」「参考になる現物資料がほしい」という声に応えました。

自治会等で使っている各種文書、アンケート、マニュアルなどの現物資料です。ぜひ活用ください。ニュースや広報・便りの事例、避難所運営の手引きも入っています。

【7】定例会における意見交換

定例会の活性化対策として2018年5月から「今月のテーマ」を決めて、意見交換を開始しました。取組み第一弾として、「災害弱者への対応、身の回りとの関係を知っておこう」の話題に対しては、自治会役員である会員から実態を話してもらうことが

良いとの提案がある等、毎月いろいろの提案と情報交換の場となりました。「大阪北部地震と学校の安全対策」、「西日本豪雨の意見交換」、「災害時の常識的行動の是非」と最新の話題の意見交換が行われました。

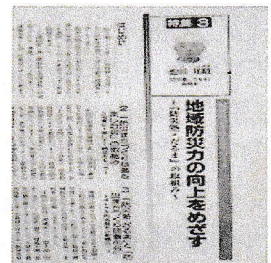
定例会での意見交換は、2020年1月「地震火災から命を守るために」を最後にCOVID-19 禍の影響で会議が開催できず中断しています。

【8】だるま活動「紹介出版物2点」

時事通信オンデマンドブックレット社から「地域防災はおだて合い」?!「ヨコハマ防災探訪記」2010年4月20日発行、上原美都男氏が横浜市危機管理監時代に出版。P22~P44にわたって防災塾・だるまの様々な活動が紹介されています。

「地方議会人」(日本全国の地方議員向けに毎月発行されている月刊誌)2015年7月号特集「減災社会をみんなで作る」への投稿

(地域防災力の向上をめざす—だるまの取組み—池田邦昭 副題「議員研修誌」)。同号の巻頭言には室崎是輝さんの「復興と自治」が載っています。



【9】「家具の転倒防止訓練」

家具の転倒防止実践訓練が、秦野市渋沢の旧池田邸で行われました。8名が参加し、会員の片山さんと山田(富)さんから指導を受けました。

6. 被災地から学ぶ

【1】だるまのルーツは、阪神淡路大震災の発生した1995年1月17日

・荏本先生は発生日の前日、防災会議で大阪に宿泊しており、災害発生後、ただちに被災現場の惨状に立ち会いました。想像を絶する現場の姿に衝撃を受け、研究の姿勢